

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表6.2.3-46に示した。また、調査地点の植生の状況を図6.2.3-69に示した。

以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈0.2~0.3m、植被率75~90%、出現種6種で、シバが優占していた。

南側は、草丈0.2m、植被率100%、出現種4~5種で、シバが優占していた。

東側は、草丈0.3~0.5m、植被率95%、出現種4~5種で、シバが優占していた。

西側は、草丈0.3~0.4m、植被率95~100%、出現種5種で、シバが優占していた。

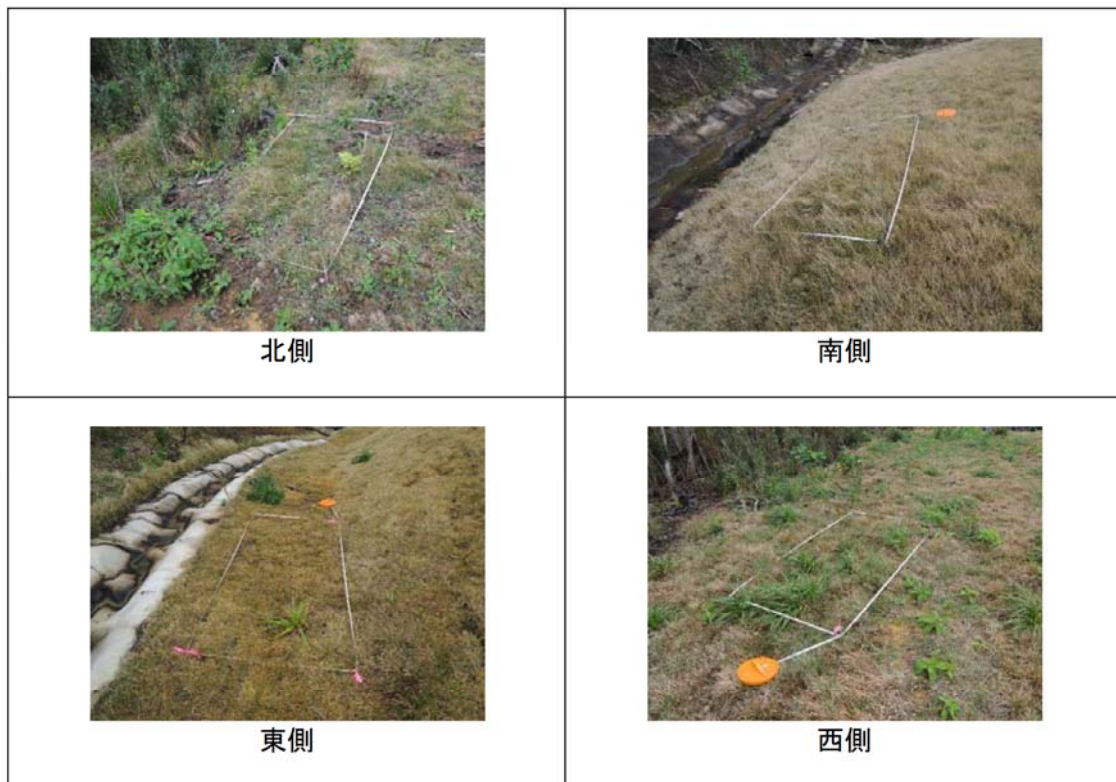


図 6.2.3-69 無障害物の植生状況(N-1(b)) 平成29年度冬季

表 6.2.3-46 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-1(b))

N-1(b) 無障害物帯 調査年月日	北側			南側			東側			西側			出現回数
	H29年度			H29年度			H29年度			H29年度			
	H29年7月	H29年10月	H30年1月	H29年7月	H29年10月	H30年1月	H29年7月	H29年10月	H30年1月	H29年7月	H29年10月	H30年1月	
方位	N	N	N	S	S	S	-	-	-	-	-	-	
傾斜角度 (°)	5	5	5	45	45	45	-	-	-	-	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.5	0.5	0.3	0.3	0.4	0.4	
出現種数 (種)	6	6	6	1	1	1	5	4	4	5	5	5	
草本層(H)													
H.1 シバ	4・4	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	5・5	4・4	12
H.2 オオアブラガヤ								+	+	1・2	2・2	2・2	5
H.3 ササクサ	+	+	+										3
H.4 ホシダ	+	+	+										3
H.5 ベニバナボロギク			+・2						+			+	3
H.6 ハマスゲ							1・2	2・2	1・2				3
H.7 ギョウギシバ										+	+	3・3	3
H.8 ホルトノキ	+	+											2
H.9 リュウキュウモチ		+	+										2
H.10 アゼガヤツリ										+	+		2
H.11 ハマサルトリイバラ											+	+	2
H.12 ワラビ	+・2												1
H.13 ヒカゲヘゴ	+												1
H.14 コウライシバ		+											1
H.15 ニワゼキショウ			+										1
H.16 シロノセンダングサ							+						1
H.17 タイヌビエ							+						1
H.18 ハイニシキソウ							+						1
H.19 アカメガシワ								+					1
H.20 シロツメクサ										+			1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。

(優占度)

5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下

(群度)

5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布

1:小群状あるいは単独に分布。

f) N-4.1

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-47 に、調査地の状況を図 6.2.3-70 に示した。

南東側及び西側においては、樹高 2.5～3.5m の低木層、草本層の 2 階層に分化しているほか、北側及び南側においては、草丈 1.7～2.0m の草本層の 1 階層にそれぞれ分化していた。種数は 18～33 種の生育を確認した。

低木層は、樹高 2.5～3.5m、植被率 5～70%、出現種数 1～7 種であった。

草本層は、草丈 1.7～2.0m、植被率 70～95%、出現種数 18～33 種であった。

北側は、ススキが優占するほか、コゴメスゲも高い被度を示した。

南東側は、木本類のシロダモが生長し、低木層となったほか、草本層はススキが優占していた。

南側は、草本類のススキやコゴメスゲが優占するほか、木本類ではホルトノキ、スタジイの被度が高くなっていた。

西側は、低木層が生長し、シマイズセンリョウ、ヒカゲヘゴの被度が高くなり、樹林地への遷移(マント群落の形成)が進行していた。

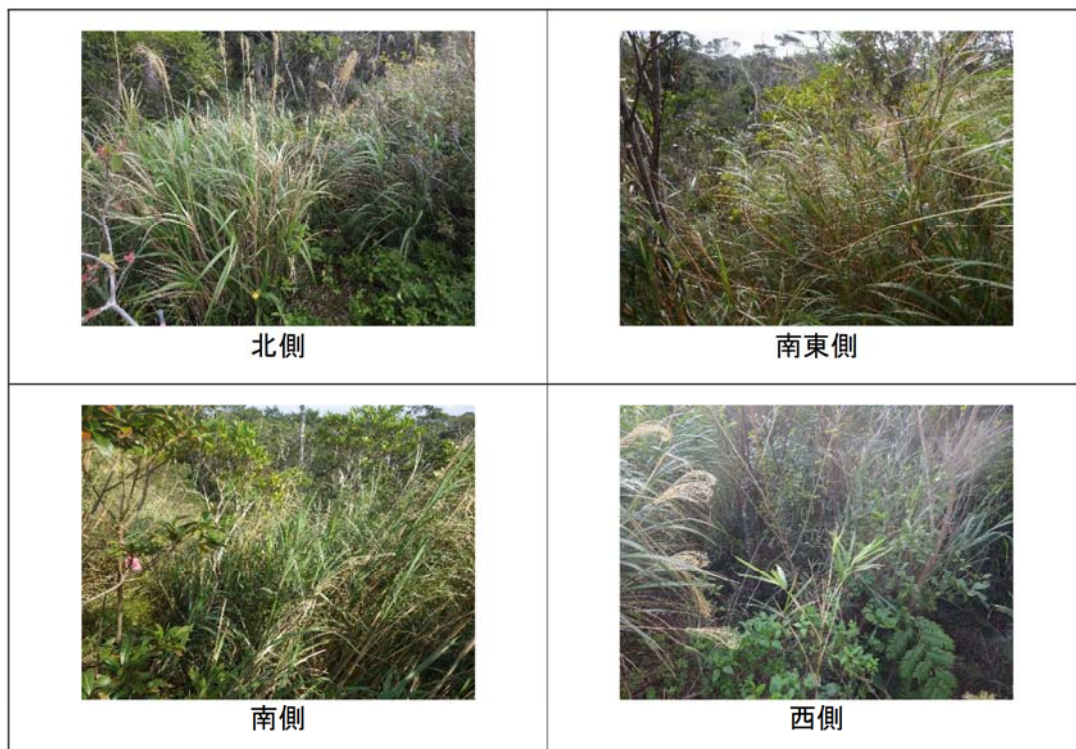


図 6.2.3-70 マント群落・ソデ群落の植生状況(N-4.1)平成 29 年度冬季

表 6.2.3-47(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1)

調査年月日	北側				南東側				南側				西側				出現回数
	H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				
	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	
海拔 (m)	176	176	176	176	172	172	172	172	174	174	174	174	170	170	170	170	
方位	N	N	N	N	S	S	S	S	SE	SE	SE	SE	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	20	20	20	20	45	45	45	45	15	15	15	15	20	20	20	20	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	2.5	2.5	2.5	2.5	-	-	-	-	3.5	3.5	3.5	3.5	
低木層(S)の植被率 (%)	-	-	-	-	5	5	5	5	-	-	-	-	40	60	70	60	
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	6	6	7	7	
草本層(H)の高さ (m)	2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	
草本層(H)の植被率 (%)	80	90	90	90	95	95	95	95	95	95	95	90	75	80	70	70	
草本層(H)の出現数 (種)	21	20	18	18	24	23	25	23	32	33	30	30	21	19	25	19	
出現種数 (種)	20	19	17	17	22	21	23	19	29	30	28	29	22	22	26	21	
低木層(S)																	
S.1 シロダモ					1-1	1-1	1-1	1-1									4
S.2 ホルトノキ(モガシ)													1-1	2-1	2-1	2-1	4
S.3 ホソバムクスビウ													1-1	1-1	1-1	1-1	4
S.4 ギンゴウカン(ギンネム)													1-1	2-2	2-2	2-2	4
S.5 オオムラサキシキブ													+	1-1	1-1	+	4
S.6 リュウキュウチク													1-1	+	+	+	4
S.7 ヤマグワ													+	+	+	+	3
S.8 ススキ															1-2	1-2	2
S.9 カキバカンコノキ																1-1	1
草本層(H)																	
H.1 ススキ	4-5	5-5	4-5	4-5	3-3	3-4	3-4	3-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	4-4	3-4	3-4	16
H.2 コメスゲ	4-4	3-4	3-4	3-4	2-3	2-3	2-3	2-3	1-2	1-2	1-2	2-2	2-2	+	+	+	16
H.3 エダウチチヂミザサ	+2	+2	+2	+	+	+	-	+	+2	+	+2	+2	+2	+	+2	+2	15
H.4 リュウキュウチク	+	+	+	+	1-2	1-2	1-2	1-2	+2	+2	+2	+2	+	+	+	+	15
H.5 ホシダ	1-2	+2	+2	+2					+	+	+2	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	14
H.6 ハイシロセンダングサ	+2	+	+2	+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	14
H.7 コンロンカ	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	14
H.8 ホソバムクスビウ	1-2		+2	+	1-1	1-1	1-1	1-1	+	+	+	+	+	+2	+	+	12
H.9 アカメガシワ	+	1-1	1-1	+	1-1	1-1	1-1	+	+	+	+	+					12
H.10 リュウキュウチク (植栽)	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+	+	+					12
H.11 シマイズセンリョウ	1-2	1-2	1-2	1-2	+	+	-						1-2	2-2	2-2	2-2	11
H.12 イヌビワ	1-2	1-2	1-2	+					+	+	+	+	+	+	+	+	11
H.13 リュウキュウテイカカズフ	+	+	+	+	+	+	-	+	+2	+2	+2	+2			+	+	11
H.14 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+					10
H.15 オノクマタケラン	1-2	1-2	1-2	1-2	+	+							+	+	+	+	9
H.16 クロガヤ	+	+	+						+	+	+	+	+	+	+	+	9
H.17 カキバカンコノキ							-	+	+	+	+	+	+	+	1-1	+	9
H.18 トベラ	+	+	+	+					1-1	1-1	1-1	1-1					8
H.19 シロダモ					1-2	1-2	1-2	1-2	+	+	+	+			+	+	8
H.20 タブノキ					+	+	-	+	1-1	1-1	1-1	1-1					8
H.21 ケホシダ					+	+	+2						1-1	1-1	1-1	2-2	7
H.22 シラタマカズラ					+	-	+		+	+	+	+					7
H.23 ホルトノキ(モガシ)									2-2	2-2	2-2	2-2	+		+	+	7
H.24 エゴノキ									+	+	+	+	1-1	1-1	+	+	7
H.25 カクレミノ	+	+	+	+					+	+	+	+					6
H.26 ヤマグワ	+	+	+	+									+	+			6
H.27 ギンゴウカン(ギンネム)	+								+	+	+	+					6
H.28 クチナシ		+	+						+	+	+	+					6
H.29 シバヤブニッケイ					+		+		+	+	+	+					6
H.30 スダジイ(イタジイ)						+	-		1-2	1-2	1-2	1-2					6
H.31 オオムラサキシキブ	+	+2							+	+	+	+					5
H.32 タイミンチバナ					+	+	-						+		+		5
H.33 リュウキュウウマノスズクサ					+								+	+	+	+	5
H.34 シシアクチ						+	-	+							+	+	5
H.35					1-1	1-1	1-1	1-1									4
H.36 ヘクソカズラ					+				+	+							4
H.37 ギイマ									1-1	1-1	1-1	1-1					4
H.38 ヒメユズリハ									+	+2	+2	+2					4
H.39 ゴンズイ									+	+	+	+					4
H.40 インドシャリンバイ									+	+	+	+					4

注)表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。  
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.2.3-47(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1)

調査年月日	北朝				南東朝				南朝				西朝				出現回数
	H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				
	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	
海拔 (m)	176	176	176	176	172	172	172	172	174	174	174	174	170	170	170	170	
方位	N	N	N	N	S	S	S	S	SE	SE	SE	SE	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	20	20	20	20	45	45	45	45	15	15	15	15	20	20	20	20	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	2.5	2.5	2.5	2.5	-	-	-	-	3.5	3.5	3.5	3.5	
低木層(S)の植被率 (%)	-	-	-	-	5	5	5	5	-	-	-	-	40	60	70	60	
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	6	6	7	7	
草本層(H)の高さ (m)	2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	
草本層(H)の植被率 (%)	80	90	90	90	95	95	95	85	95	95	95	90	75	80	70	70	
草本層(H)の出現数 (種)	21	20	18	18	24	23	25	23	32	33	30	30	21	19	25	19	
出現種数 (種)	20	19	17	17	22	21	23	19	29	30	28	29	22	22	26	21	
草本層(H)																	
H.41 ショウベンノキ									+	+	+	+					4
H.42 ヒカゲヘゴ													+	+	1・1	1・1	4
H.43 ヒラミレモン													+	+	+	+	4
H.44 ツボクサ					+	+	-										3
H.45 マンリョウ					+	+	-										3
H.46 シロミミズ					+				+			+					3
H.47 コシダ						+	-	+									3
H.48 サネカズラ									+	+	+						3
H.49 ハゼノキ													+	+	+		3
H.50 リュウキュウイチゴ							-	+									2
H.51 コバナヒメハギ					++2												1
H.52 ホウロクイチゴ						+											1
H.53 リュウキュウマツ								+									1
H.54 イタビカズラ								+									1
H.55 フカノキ									+								1
H.56 コバンモチ										+							1
H.57 ヤブニッケイ													+				1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かへ<sup>o</sup>ット状に分布, 4: かへ<sup>o</sup>ットに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南東側、南側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.2.3-48 に示した。また、調査地点の植生の状況を図 6.2.3-71 に示した。

無障害物帯は、平成 22 年度末に樹木の伐採が行われた後、地形が現状のまま保全されていたことから表土が維持され、埋土種子からの発芽による実生株や周辺からの草本類の侵入等が確認されている。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈 0.3~0.5m、植被率 80~95%、出現種 14~15 種であった。草刈りの影響から、高さが低下し、ハイシロノセンダングサが優占するほか、コゴメスゲ、ホシダも高い被度を示した。

南東側は、草丈 1.8m、植被率 95~100%、出現種 15~19 種であった。今年度は、草本類のススキが優占するほか、ホシダ、コゴメスゲ等が生育していた。

南側は、草丈 1.5m、植被率 80~90%、出現種 16~21 種であった。今年度は、草本類のススキが優占するほか、コゴメスゲ等が生育するほか、木本類のシロダモ、タブノキの被度も増加していた。

西側は、草丈 0.8m、植被率 95~100%、出現種 6~13 種であった。今年度は草本類のチガヤが優占するほか、ススキ、アメリカハマグルマ等が生育していた。

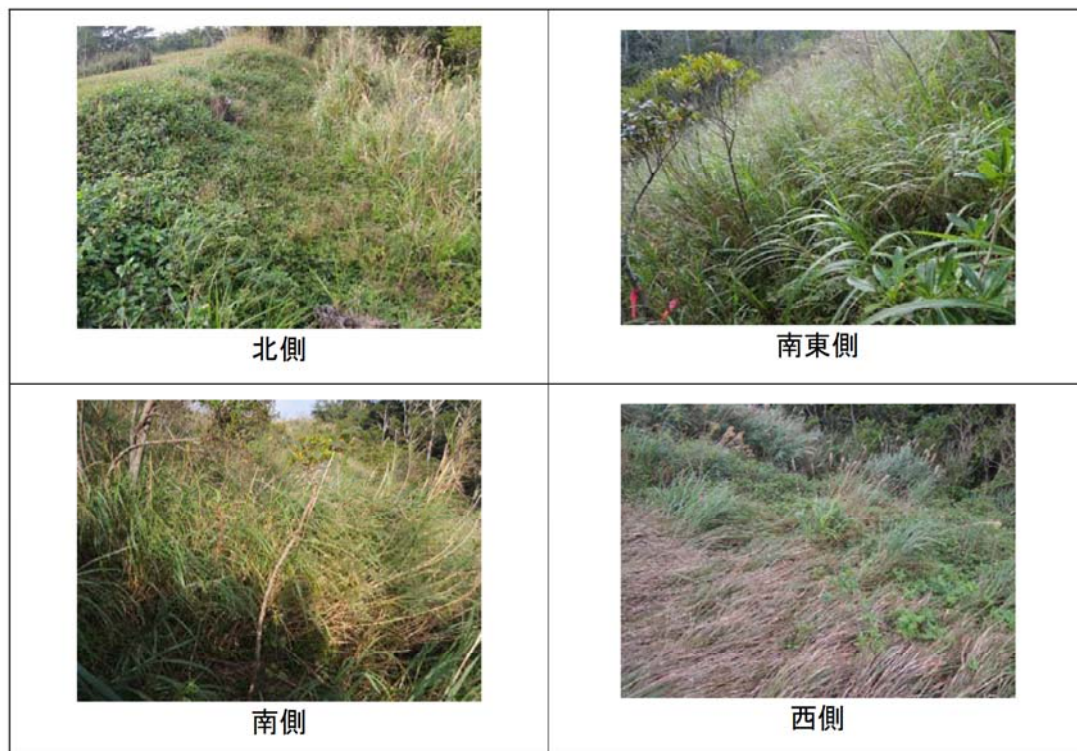


図 6.2.3-71 無障害物の植生状況(N-4.1) 平成 29 年度冬季

表 6.2.3-48(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.1)

調査年月日	北側				南東側				南側				西側				出現回数
	H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				
	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	6/2	9/1	11/29	1/30	
海拔 (m)	178	178	178	178	175	175	175	175	176	176	176	176	175	175	175	175	
方位	N	N	N	N	SSW	SSW	SSW	SSW	SE	SE	SE	SE	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	20	20	20	20	30	30	30	30	30	30	30	30	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.3	0.5	0.5	1.8	1.8	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.5	0.8	0.8	0.8	0.8	
草本層(H)の植被率 (%)	90	80	90	95	95	95	100	100	90	90	90	80	95	100	100	100	
出現種数 (種)	15	14	15	15	18	19	18	15	21	20	18	16	13	9	8	6	
草本層(H)																	
H.1 ススキ	+	+	+	+	4・4	4・4	4・5	4・5	3・3	3・4	4・4	4・4	+	+	1・2	1・2	1・2
H.2 コゴメスゲ	1・2	1・2	2・2	3・3	3・3	3・3	3・3	3・3	2・3	2・3	2・3	3・3			+	+	+
H.3 ギンゴウカン(ギンネム)	+	+	+		+	1・1	1・1	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
H.4 ホシダ	3・3	2・2	2・3	2・3	2・3	2・3	3・3	4・4	+	+	+	+	+	+			
H.5 ハイシロノセンダングサ	4・5	4・4	4・5	4・4									+	+	2・3	2・3	2・3
H.6 タブノキ								+	+	+	+	+					
H.7 シロダモ						+	+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2				
H.8 カキバカンコノキ						+	+	+	+	+	+	+					
H.9 オキナワサルトリイバラ						+	+	+	+	+	+	+					
H.10 ヒメズリハ						+	+	+	+	+	+	+					
H.11 アメリカハマグルマ									+	+	+	+	+	1・2	1・2	+	+
H.12 エダウチチヂミザサ	+	+	+						+	+	+	+					
H.13 アカメガシワ						+	+	+	+	+	+	+					
H.14 リュウキュウバライチゴ	+	+	+	+											+	+	
H.15 リュウキュウテイカズラ	+	+							+	+	+						
H.16 リュウキュウチク		+	+	+	+	+	+										
H.17 イヌビワ	+	+	+	+						+							
H.18 チガヤ															5・5	5・5	5・5
H.19 シマイズセンリョウ						+	+	+	+								
H.20 ホルトノキ(モガシ)						1・1	1・1	1・1	1・1	+							
H.21 コンロンカ						+	+	+	+	+							
H.22 コバナヒメハギ	+	+	1・2	2・2													
H.23 ナガバハリフタバ	+	+	+												+		
H.24 ツボクサ			+	+					+			+					
H.25 アオノクマタケラン						+	+	+	+								
H.26 イスノキ						+	+	+	+								
H.27 ホソバムクイヌビワ									1・1	1・1	1・1	1・1					
H.28 コバンモチ									+	+	+						
H.29 ヘクソカズラ									+	+	+						
H.30 オニタビラコ	+	+	+														
H.31 シマサルナシ	+	+															
H.32 ヤマグワ		+		+													
H.33 オオムラサキシキブ			+	+													
H.34 エゴノキ						+	+										
H.35 ホウロクイチゴ							+	+									
H.36 トサカメオトラン								+	+								
H.37 ヤブニッケイ									+	+							
H.38 オオアレチノギク														+	+		
H.39 カタバミ	+																
H.40	+																
H.41 ヒメアブラススキ				+													
H.42 キキョウラン				+													
H.43 コブナグサ				+													
H.44 ギーマ						+											
H.45 ナンバギセル								+									
H.46 タイミンタチバナ									+								
H.47 ヒメイタビ									+								
H.48 リュウキュウマツ										+							
H.49 インドジャリンバイ										+							
H.50 ヤハズソウ														+	+		
H.51 ギョウギシバ														+			
H.52 イヌムギ														+			
H.53 ヒメアオスゲ(ミヤマスゲ)														+			
H.54 アキノゲシ															+		
H.55 キツネノボタン															+		

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。

(優占度)  
5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下

(群度)  
5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布 1:小群状あるいは単独に分布。

g) N-4.2

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.2.3-49 に、調査地の状況を図 6.2.3-72 に示した。

東側においては、樹高 4.0m の亜高木層、低木層、草本層の 3 階層に分化しているほか、西側においては、樹高 2.5m の低木層、草本層の 2 階層にそれぞれ分化していた。種数は 20～26 種の生育を確認した。

亜高木層は、樹高 3.5～4.0m、植被率 15～25%、出現種数 3 種であった。

低木層は、樹高 2.5m、植被率 20～90%、出現種数 3～9 種であった。

草本層は、草丈 1.0～1.2m、植被率 40～60%、出現種数 17～25 種であった。

東側は、工事前からリュウキュウチクが生育しており、既存のマント群落・ソデ群落が形成されている。

西側は、今年度は低木層のリュウキュウチクの被度が低下しており、植被率も減少していたが草本層の植被率が増加傾向であった。



図 6.2.3-72 マント群落・ソデ群落の植生状況(N-4.2)平成 29 年度冬季



表 6.2.3-49(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.2)

調査年月日	東側				西側				出現回数
	H29年度								
	6/3	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	
調査年月日	H29年度				H29年度				
海拔 (m)	169	169	169	169	167	167	167	167	
方位	E	E	E	E	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	3	3	3	3	-	-	-	-	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
亜高木層(T)の高さ (m)	3.5	3.5	3.5	4.0	-	-	-	-	
亜高木層(T)の植被率 (%)	15	15	25	25	-	-	-	-	
亜高木層(T)の出現数 (種)	3	3	3	3	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	
低木層(S)の植被率 (%)	80	90	90	90	20	20	25	25	
低木層(S)の出現数 (種)	7	8	8	9	3	3	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2	
草本層(H)の植被率 (%)	40	50	50	50	50	50	60	60	
草本層(H)の出現数 (種)	17	18	19	17	21	21	25	22	
出現種数 (種)	20	20	21	20	21	21	25	22	
亜高木層									
T.1 ホルトノキ(モガシ)	1・2	1・2	2・2	2・2					4
T.2 シロダモ	1・1	1・1	1・1	1・1					4
T.3 リュウキュウチク	+・2	+・2	+・2	+・2					4
低木層									
S.1 リュウキュウチク	5・5	5・5	5・5	5・5	1・2	1・2	1・2	1・2	8
S.2 スダジイ(イタジイ)	1・2	2・2	2・2	2・2					4
S.3 ササバサンキライ	+	+	+	+					4
S.4 トキワカモメヅル	+	+	+	+					4
S.5 リュウキュウテイカカズラ	+	+	+	+					4
S.6 カクレミノ	+	+	+	+					4
S.7 ヒメズリハ	+	+	+	+					4
S.8 リュウキュウチク (植栽)					1・2	1・2	1・2	1・2	4
S.9 ススキ					+	+・2	1・2	1・2	4
S.10 ツルグミ		+	+	+					3
S.11 ムベ				+					1
草本層(H)									
H.1 シラタマカズラ	1・2	+・2	+・2	+・2	+	+	+・2	+	8
H.2 リュウキュウチク	+	1・2	1・2	1・2	+・2	+・2	+・2	+・2	8
H.3 リュウキュウテイカカズラ	+	+	+	+	+	+	+・2	+・2	8
H.4 タブノキ	+	+	+	+	+		+	+	7
H.5 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+		+	+		6
H.6 ササクサ	+	+	+	+			+	+	6
H.7 トキワカモメヅル	+	+	+	+			+	+	6
H.8 リュウキュウイチゴ	+				+	+	+	+	5
H.9 ゴンズイ	+				+	+	+	+	5
H.10 シバヤブニツケイ		+			+	+	+	+	5
H.11 スダジイ(イタジイ)	3・3	3・3	3・3	3・3					4
H.12 ケテイカカズラ	+	+	+	+					4
H.13 ヒメズリハ	+	+	+	+					4
H.14 オオバチヂミザサ	+	+	+	+					4
H.15 イタビカズラ	+	+	+	+					4
H.16 トペラ	+	+	+	+					4
H.17 ツルグミ	+	+	+	+					4
H.18 エダウチヂミザサ		+	+			+	+		4
H.19 ハゼノキ			+		+	+	+		4
H.20 ホシダ					3・3	3・3	3・3	3・3	4

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
 群度→5: かべつ状に分布, 4: かべつ状に穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.2.3-49(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.2)

N-4.2 マント群落・ソデ群落形成地		東側				西側				出 現 回 数
調査年月日		H29年度				H29年度				
		6/3	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	
海拔	(m)	169	169	169	169	167	167	167	167	
方位		E	E	E	E	W	W	W	W	
傾斜角度	(°)	3	3	3	3	-	-	-	-	
調査区面積	(m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
亜高木層(T)の高さ	(m)	3.5	3.5	3.5	4.0	-	-	-	-	
亜高木層(T)の植被率	(%)	15	15	25	25	-	-	-	-	
亜高木層(T)の出現数	(種)	3	3	3	3	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ	(m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	
低木層(S)の植被率	(%)	80	90	90	90	20	20	25	25	
低木層(S)の出現数	(種)	7	8	8	9	3	3	3	3	
草本層(H)の高さ	(m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2	
草本層(H)の植被率	(%)	40	50	50	50	50	50	60	60	
草本層(H)の出現数	(種)	17	18	19	17	21	21	25	22	
出現種数	(種)	20	20	21	20	21	21	25	22	
草本層(H)										
H. 21 コゴメスゲ						1・2	1・2	1・2	1・2	4
H. 22 アカメガシワ						+2	+2	1・2	+2	4
H. 23 ススキ						+	+2	+2	+2	4
H. 24 リュウキュウマツ						+	+	+	+	4
H. 25 ホラシノブ						+	+	+	+	4
H. 26 エゴノキ						+	+	+	+	4
H. 27 ホルトノキ(モガシ)						+	+	+	+	4
H. 28 ハイシロノセンダングサ						+	+	+	+	4
H. 29 シロダモ			+	+	+					3
H. 30 ササバサンキライ			+	+	+					3
H. 31 ヤマグワ						+	+		+	3
H. 32 コシダ						+		+	+	3
H. 33 アオノクマタケラン				+	+					2
H. 34 イヌビワ						+	+			2
H. 35 コバナヒメハギ								+	+	2
H. 36 カクレミノ		+								1
H. 37 キキョウラン						+				1
H. 38 インドシャリンバイ							+			1
H. 39 オオバギ								+		1
H. 40 リュウキュウバライチゴ								+		1
H. 41 ハナガサノキ									+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下  
群度→5: かべッ状に分布, 4: かべッ状に穴が開いた状態, 3: 大きな斑を形成あるいはまだら状, 2: 斑状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、北側、東側、南東側、南側、西側の5ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.2.3-50 に示した。また、調査地点の植生の状況を図 6.2.3-73 に示した。

無障害物帯は、平成25年度に樹木の伐採を行い、盛土部分は張り芝が行われている。以下に、各地点の植生状況を示した。

北側は、草丈0.2m、植被率70~90%、出現種5~17種であった。今年度は、芝張りされたシバが優占していた。

東側は、第1草本層が高さ3.0m、植被率10~30%、出現種3~4種、第2草本層が高さ1.5m、植被率80~90%、出現種24~26種であった。今年度はアカメガシワが優占するほか、リュウキュウチクも高い被度を示していた。

南東側は、第1草本層が高さ1.3~1m、植被率5~20%、出現種1~2種、第2草本層が高さ0.3~0.5m、植被率90~95%、出現種8~14種であった。今年度は、ハイシロノセンダングサが優占するほか、チガヤも高い被度を示した。

南側は、草丈0.2~0.3m、植被率80~100%、出現種9~15種であった。今年度は、同様に芝張りされたシバが優占するほか、コウライシバ、ハイシロノセンダングサも高い被度を示した。

西側は、草本層に分化がみられず、高さ0.4m、植被率20~90%、出現種5~16種であった。今年度も、芝張りされたシバが優占していたが、秋季調査時にイノシシによる掘り返しがみられ植被率が著しく低下した。

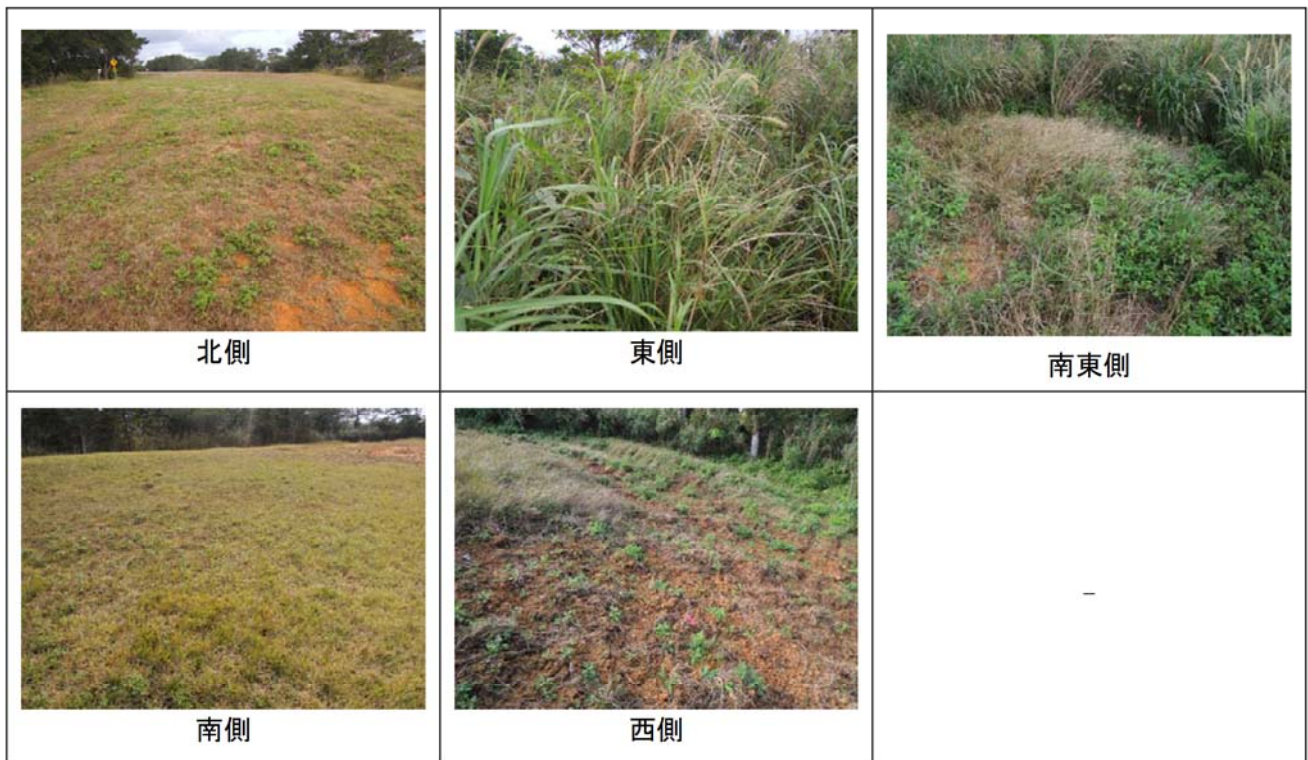


図 6.2.3-73 無障害物の植生状況(N-4.2)平成29年度冬季

表 6.2.3-50(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.2)

調査年月日	北側				南側				南東側				東側				西側				出現回数
	H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				
	6/2	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	6/2	9/1	11/30	1/30	6/2	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	
海拔 (m)	175	175	175	175	173	173	173	173	171	171	171	171	172	172	172	172	167	167	167	167	
方位	S	S	S	S	W	W	W	W	E	E	E	E	-	-	-	-	-	W	W	W	W
傾斜角度 (°)	10	10	10	10	2	2	2	2	3	3	3	3	-	-	-	-	30	30	30	30	4.5
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
草本層-1(H)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	1.0	1.0	1.0	3.0	3.0	3.0	3.0	-	-	-	-	-
草本層-1(H)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	10	5	30	10	10	10	-	-	-	-	-
草本層-1(H)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	1	4	3	4	4	-	-	-	-	-
草本層-2(H)の高さ (m)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	0.4	0.4	0.4	0.4
草本層-2(H)の植被率 (%)	90	90	90	70	80	95	100	100	90	90	95	90	80	80	90	90	90	90	15	20	20
草本層-2(H)の出現数 (種)	17	5	6	6	12	10	15	9	11	8	14	12	24	25	26	24	24	15	16	5	5
出現種数 (種)	17	5	6	6	12	10	15	9	11	8	14	12	24	25	26	24	24	15	16	5	5
草本層-1(H)																					
H.1	ギンゴウカン(ギンネム)								+												4
H.2	ススキ												2・2				+				4
H.3	ホルトノキ(モガシ)												1・1				1・1				4
H.4	アカメガシワ												+				+				4
H.5	タチスズメノヒエ								2・2				2・2				+				3
H.6	ヒメユズリハ																+				2
H.7	リュウキュウチク												1・2								1
草本層-2(H)																					
H.1	ハインロセンダングサ				1・2				+2				1・2				1・2				20
H.2	シバ				4・4				4・4				4・4				4・4				12
H.3	チガヤ				+2				+2				1・2				1・2				12
H.4	タチスズメノヒエ				+2				+2												10
H.5	ギンゴウカン(ギンネム)								+				+				+				10
H.6	ホシダ								+				+				+				10
H.7	ヤハズソウ				5・5				5・5				3・4				+				8
H.8	イヌビワ												+				+				8
H.9	マルバダケハギ				1・1				1・2				+				+				7
H.10	オニタビラコ				+								+				+				7
H.11	リュウキュウイチゴ												+				+				7
H.12	コウライシバ								2・2				2・2				1・2				6
H.13	セイトカアワダテソウ												+2				+2				6
H.14	ヒメジョオン				+												+				5
H.15	アキノノゲシ				+												+				5
H.16	アブラスキ				+				+												4
H.17	アゼガヤツリ								+				+				+				4
H.18	イワダレソウ								+2				+2				+				4
H.19	ススキ												3・3				3・3				4
H.20	アカメガシワ												2・3				2・3				4
H.21	リュウキュウチク												1・2				1・2				4
H.22	コゴメスゲ												1・2				1・2				4
H.23	ヒメユズリハ												1・2				1・2				4
H.24	キキョウラン												+2				+2				4
H.25	スダジイ(イタジイ)												+				+				4
H.26	オキナワサルトリイバラ												+				+				4
H.27	シラタマカズラ												+				+				4
H.28	トベラ												+				+				4
H.29	ホルトノキ(モガシ)												+				+				4
H.30	リュウキュウテイカカズラ												+				+				4
H.31	タブノキ												+				+				4
H.32	ホウロクイチゴ												+				+				4
H.33	ケテイカカズラ												+				+				4
H.34	カキバカンコノキ												+				+				4
H.35	メシバ								+				+				+				3
H.36	ヒメクグ												+				+				3
H.37	ハゼノキ												+				+				3
H.38	ヤマグワ												+				+				3
H.39	エダウチチヂミザサ												+				+				3
H.40	ハマスゲ																2・2				3
H.41	アメリカホウライセンブリ				+				+2												2
H.42	ニワゼキショウ				+				+												2
H.43	ツメクサ				+				+												2
H.44	コバナヒメハギ				+				+												2
H.45	ホウキギク				+												+				2
H.46	シオカゼテンツキ								+				+								2
H.47	ナガバハリフタバ								+				+								2
H.48	オオバギ												+				+				2
H.49	インドジャリンバイ												+				+				2
H.50	ヒメムカシヨモギ																1・2				2

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。  
 (優占度)  
 5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下  
 (群度)  
 5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布 1:小群状あるいは単独に分布。

表 6.2.3-50(2) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-4.2)

N-4.2 無障害物帯形成地	北側				南側				南東側				東側				西側				出現回数
	H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				H29年度				
	6/2	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	6/2	9/1	11/30	1/30	6/2	9/1	11/30	1/30	6/3	9/1	11/30	1/30	
海拔 (m)	175	175	175	175	173	173	173	173	171	171	171	171	172	172	172	172	167	167	167	167	
方位	S	S	S	S	W	W	W	W	E	E	E	E	-	-	-	-	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	10	10	10	10	2	2	2	2	3	3	3	3	-	-	-	-	30	30	30	30	
調査区面積 (m <sup>2</sup> )	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
草本層-1(H)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	1.0	1.0	1.0	3.0	3.0	3.0	3.0	-	-	-	-	
草本層-1(H)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	10	5	30	10	10	10	-	-	-	-	
草本層-1(H)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	1	4	3	4	4	-	-	-	-	
草本層-2(H)の高さ (m)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3	1.5	1.5	1.5	1.5	0.4	0.4	0.4	0.4	
草本層-2(H)の植被率 (%)	90	90	90	70	80	95	100	100	90	90	95	90	80	80	90	90	90	90	15	20	
草本層-2(H)の出現数 (種)	17	5	6	6	12	10	15	9	11	8	14	12	24	25	26	24	15	16	5	5	
出現種数 (種)	17	5	6	6	12	10	15	9	11	8	14	12	24	25	26	24	15	16	5	5	
草本層-2(H)																					
H. 51	クグテンツキ																			2	
H. 52	ホンバアキノノゲシ																			2	
H. 53	コマツヨイグサ	+																		1	
H. 54	ウリクサ	+																		1	
H. 55	スズメノエンドウ	+																		1	
H. 56	キバナニワゼキショウ					+														1	
H. 57	アイナエ					+														1	
H. 58	アフリカヒゲシバ							+												1	
H. 59	ネズミノオ							+												1	
H. 60	ツボクサ									+										1	
H. 61	シマズメノヒエ									+										1	
H. 62	カタバミ											+								1	
H. 63	ウラジロカンコノキ													+						1	
H. 64	シマイズセンリョウ																+			1	
H. 65	オオアレチノギク																	+		1	
H. 66	コブナグサ																		+	1	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「2・3」の場合、「2」が優占度、「3」が群度となる。

(優占度)

5:被度が75~100% 4:被度が50~75% 3:被度が25~50% 2:被度が10~25% 1:被度が10%未満 +:被度が1%以下

(群度)

5:カーペット状に分布 4:カーペットに穴が開いた状態 3:大きな斑を形成あるいはまだら状 2:斑状に分布 1:小群状あるいは単独に分布。